

令和5年度第2回出雲圏域地域医療構想調整会議 議事概要

【日時】令和5年10月11日（水）19:00～20:00

【場所】出雲保健所 大会議室

【出席者】各病院長、医師会長、介護保険サービス事業者連絡会、介護支援専門員協会、訪問看護ステーション、保険者協議会、出雲市消防本部、出雲市等
(委員：21名、オブザーバー：9名)

【 議事内容 】

1. 公立病院経営強化プラン素案について

- ① 出雲市立総合医療センター
- ② 島根県立病院（島根県立中央病院、島根県立こころの医療センター）

【 主な意見・協議結果 】

1. 公立病院経営強化プラン素案について

① 出雲市立総合医療センター【資料1】

- ・ 現在の病床は199床、療養型や地域包括ケア病棟へ転換を図り、ケアミックス型。主に平田・斐川地域の患者を中心に受け入れている。
- ・ 出雲圏域では入院と在宅医療は2040年、外来は2030年がピークとなるが、平田地域では外来と在宅医療の提供体制が課題。
- ・ 今後に向けて、急性期から在宅医療までの一体的提供として『土日含めた365日リハビリテーション実施体制の構築』在宅療養支援に関連して『医療依存度の高い人のレスパイト入院の受入』『訪問栄養指導の実施』『在宅療養支援病院としての機能強化』の5つのフラッグを掲げている。予防医療としては健診センター機能・人間ドックの拡充などがあげられる。
高度医療機関との連携をより一層強化し、円滑な転入院とともに介護との連携強化にも取り組んでいきたい

<委員からの意見>

- しっかり立案された計画で、後方支援病院として2次救急までの対応と24時間365日リハが重要となる。
- 併設施設として訪問看護を有しており、急性期も対応可能な病院で一体的に診れることは強みである。
- 圏域として回復期が少なく急性期からの転換が必要な中、不足分を補う機能を期待している

【質疑】

■ 病院職員の高齢化への対応状況は

(回答) 診療部は特に若手医師の確保が難しく、制度上過疎法に該当しないため若手の医師が地域医療を学べない課題あり、改善の必要性を感じている。

■ 財政収支の見通しについて

(回答) コロナ後の入院患者が即回復しない可能性もあり、経営強化プランに基づき様々な取

組を進めていく方向性。具体的には教育入院等の予定入院やレスパイト入院としての活用などを想定している。

② 島根県立病院【資料 2～4】

- ・ 新型コロナ対応では公立病院が中核的役割を果たしたが、人口減に伴い医療需要の減少が見込まれる中、医療提供体制を最大限に生かせる連携や持続可能な地域医療提供体制の確保が必要。
- ・ 今後に向けて、新型コロナ対応時に円滑な入退院の連携に課題があり、一時的に医療逼迫が生じる状況があった。外来では紹介受診重点医療機関として後方支援病院との連携が必要。隣接医療圏域からの患者入院に対応できる医療体制の確保、医療需要の検討も必要。こころの医療センターでは、病院全体が政策医療を担っており、基幹病院としての役割果たすため中長期的な経営基盤の確保が必要。

<委員からの意見・質疑>

- 外来機能強化の中でかかりつけ医との関係性が課題になるが、逆紹介含め地域の医療機関と連携を図る方法について

(回答) 情報連携のツールとして、本人同意があればまめネットの活用が有益と考えている。

外来での逆紹介率は100%を超えており飛び込みの患者さんも逆紹介している。一定程度状態安定したら紹介・逆紹介の仕組みを運用する方向性。

- 在宅医療への支援について、具体的には認定看護師の訪問同行等を想定しているのか

(回答) 退院後1カ月は同行訪問が可能であり、継続治療ができるような円滑な移行を目指した支援が1点。2点目は受診がない患者でも地域の訪問看護が困っていれば認定看護師が同行できる事業もある。